六　伊勢神宮荘園時代から鎌倉期へ

平安時代には、山東町内は荘園時代に入る。そんな中で金浦の属する磯部郷は伊勢神宮の荘園となっている。これは鎌倉時代に、但馬の守護職大田昌明が国内の荘園領主や面積を鎌倉幕府に報告したものであるが、そこに朝来郡磯部郷は伊勢神宮の荘園であり鎌倉時代は関東御領として幕府の直轄地となっていたことが報告されている。丹波国との国境を抱える郷なので直轄地にしたのであろうとの歴史家の見解である。

その国境に位置する金浦地区は行政的にも軍事的にも重要な位置にあったのではないかと考えられる。